
2007 年度 第1回 音環境運営委員会 議事録

記録:田端

- A. 日 時 2007 年 4 月 10 日(火) 17 時 00 分～18 時 30 分
- B. 場 所 建築学会会議室 #301
- C. 出席者 大鶴 徹, 田端 淳, 佐久間哲哉, 濱田幸雄, 赤尾伸一, 岸永伸二, 安藤 啓, 岩瀬昭雄,
河井康人, 吉村純一, 吉久光一, 中澤真司, 古賀貴士, 井上勝夫, 安岡博人, 羽染武則(敬称略)
欠席者 坂本慎一, 平松友孝, 福地智子, 佐藤哲身, 藤本一壽, 中川 清(敬称略)
- D. 提出資料
- No.1-0 平成 18 年度 第6回 音環境運営委員会議事録(案)(中澤)
- No.1-1 2007 年度 第1回 音環境運営委員会 議事次第(平松)
- No.1-2 平成 19 年度 音環境運営委員会名簿(大鶴)
- No.1-3 日本音響学会建築音響研究委員会 今後の予定(吉村)
- No.1-4 日本音響学会騒音・振動研究委員会 今後の予定(吉久)
- E. 審議事項
1. 前回議事録確認(資料No.1-0)
 - ・ 承認された.
 2. 環境工学本委員会報告(資料No.1-1)
 - ・ 大会研究集会の日時決定:研究協議会:2 日目午後, PD:2 日目午前, 研究懇談会:3 日目午前.
 - ・ 同研究懇談会「研究状況の現状認識と研究課題の将来展望ー辿った道と歩むべき道ー」では大鶴主査が音環境研究の状況を報告する. 詳細が分かり次第、各委員会等へ資料提供等のご協力をお願いする予定.
 - ・ 2006 年度会費・大会発表登録費未納者への対応:「4/19 までに未納の場合には受理しない」旨を通告する.
 - ・ 大会オーガナイズドセッションの申込:「床衝撃音の測定法と評価」に 7 件の申し込みがあった.
 - ・ 大会プログラム編成:今回から細分類・細々分類に基づき分野間で調整する方法を取る. このため 3 日前までに事務局から各運営委員会代表者に発表リストを送付し検討する. 大会プログラム編成会議[2007 年 5 月 11 日]は, 平松前主査(代表), 中澤, 赤尾, 佐久間, 中川, 安岡, 吉村, 福地(計 8 名, 敬称略)が担当する.
 - ・ 建築環境工学教材改定 WG 報告:改訂にあたり,「環境測定編」と「設備測定編」は統合する.「振動」を音環境とは別項目とし,「騒音」「室内音響」「遮音」を各々 2 コマずつとする.
 - ・ 委員会委員:下記委員が新委員として選出された.
 - ・技術報告集委員会委員:矢野博夫先生
 - ・学会賞選考委員会委員(論文):藤本一壽先生
 - ・奨励賞委員:河井康人先生
 - ・ シンポジウム実施計画書:第 25 回環境振動シンポジウム「環境振動の性能設計はどこまで可能か」2007 年 1 月 23 日(開催済)
 - ・ 加藤前主査より以下の申し送り事項があった.
 - ・昨年度より小委員会の活動について, 新たな評価方法を実施した. 今後も継続して欲しい.
 - ・大会プロ編では同じ項目がいくつもの分野にあって混乱を招くことの無いよう, 再分類・再々分類の見直しを継続的に行なって欲しい.
 - ・アカスタを推進して欲しい.
 - ・環境工学教材の改訂を完結して欲しい.
 - ・環境工学シンポジウム(研究懇談会)を継続して欲しい.

- ・ 環境工学本委員会の委員長・幹事が選任された。
 - ・委員長:井上勝夫先生(日本大学)
 - ・幹事:久野覚先生(名古屋大学)
 - ・同 :石川孝重先生(日本女子大学)
 - ・同 :稲留康一氏(奥村組)

3. 小委員会・WG活動報告

○音環境数値解析小委員会(大鶴主査)

- ・ 2007年3月19日に委員会を開催。大会発表内容、及び4月以降の進め方について討議した。
- ・ 委員公募の手続き中。

○集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会(羽染主査)

- ・ 委員会開催なし。

○固体音小委員会(平松主査(欠), 中澤幹事)

- ・ 2007年3月6日にシンポジウム「重量床衝撃音の標準衝撃源」を開催。参加者約70名。設備機器に伴う固体音検討WGの報告も併せて実施した。

○建築音響測定法小委員会(赤尾主査)

- ・ 委員会開催なし。
- ・ 成果を大会に発表するため、原稿作成中。

○室内音響小委員会(岸永主査)

- ・ 2007年2月末に劇場・ホール小委員会(計画委員会)とコラボレーションの委員会を開催した。
- ・ 同委員会から打診のあった、大分県日田市市民会館見学会に関しては、音に関する発表がないこと、当初から参画していなかったこと、から共催を見送った。
- ・ 2007年3月30日にシンポジウム「室内の音声伝送品質の設計・評価基準の確立に向けて」を実施した。
- ・ 音声伝送研究WGは2006年度の活動で終了する。代わって音声伝送設計指針作成WGを立ち上げ、アカデミックスタンダードの作成を目指した活動を開始する。

○企画・広報WG(中川主査(欠))

- ・ 2007年3月23日にシンポジウム「音環境に関する法規制・規格・基準の現状とアカデミックスタンダードについて」を実施した。

○音環境アカデミック・スタンダードWG(佐久間主査)

- ・ 2007年3月23日にシンポジウム「音環境に関する法規制・規格・基準の現状とアカデミックスタンダードについて」を実施した。
- ・ 本WGは2006年度をもって終了する。今後、アカデミック・スタンダードに関する検討は、企画・広報WGが引き継ぐ。

○学校施設の音環境保全規準解説刊行小委員会(福地主査(欠), 佐久間委員)

- ・ 学会 web にてパブリックコメントを実施する予定である。

4. 他学会予定(資料No.1-3,1-4)

- ・ 日本音響学会建築音響研究会:4/20 日本建築総合試験所, 5/24 東京大学柏キャンパス
- ・ 日本音響学会騒音・振動研究会:5/25 名城大学天白キャンパス, 6/22 小林理学研究所, 7/27 新潟大学, 8/24 島根大学

5. その他

- 音環境運営委員会及び傘下小委員会の 2007 年度予算は総額 782,000 円(昨年度に比べ 32,000 円減額). 昨年度の配分方法を参考にして配分する. 2006 年度予算は, 概ね予定通り実施した. (大鶴主査)
- 音環境のアカデミックスタンダード作成に関しては, 適宜対応していく. 内容に応じて必要な小委員会に協力を願う. (大鶴主査)
- アカデミックスタンダードの作成は環境工学委員会が推進している. どこまでを統一的にまとめるかは環境工学本委員会で議論する必要がある. いずれにしても, 会員サービスという観点からも推進すべきと考える. 音環境はこれまでもスタンダード化を推進しており, 既往のスタンダードの見直しを含め, 「どうの方策で」, 「どこまでを」, 「どういう風に」行なうかを検討委員会を立ち上げて実施して欲しい. (井上先生)
- CASBEE への対応に関しては, 改訂等のタイミングで音環境から委員を送り込むなどの方法が考えられる. IBEC へ申し入れをしたことなど, 次回の本運営委員会で経緯を説明する. (井上先生)
- 本運営委員会は環境工学本委員会と同日の 17 時からの開催を原則とする. (2007 年度の予定は 2007 年 4 月 13 日に決定する)
- シンポジウム等の催物を実施した小委員会等は, 開催後速やかに「実施報告」を提出して下さい. (事務局)

☆次回予定 2007 年 5 月 15 日(火)17 時 00 分～ 建築学会会議室